

総合計画に関する調査研究特別委員会
文教分科会長 長野春信様

氏名 朝倉 幹晴

基本計画に対する意見(文教分科会)

基本施策：7 子育て支援 / **8 学校教育** / 9 生涯学習 / 10 文化・スポーツ

意見 施策2 教育内容の充実

「自立して、主体的に社会に関わることができる子供を育成するため、確かな学力の向上、豊かな心の育成、健やかな体づくりを進めます。」

については以下のように修正をすべきである。

「自立して、主体的に社会に関わり次の時代を創り出すことができる次世代を育成するため、確かな学力の向上、豊かな心の育成、健やかな体づくりを進めます。」

理由 元児童・生徒たちは5～10年程度で成人となり次世代の中心となっていく。したがって「子供を育成」という表現より「次世代を育成」としたほうがよい。そして、その次世代を担う元児童・生徒たちが、既存の社会に関わるだけでなく、次の時代を創り出すことができることを明記すべきである。(主旨をおくみとりいただければ、上記の表現のみにこだわるわけではなく、表現の微修正は検討いたします)

基本施策：7 子育て支援 / **8 学校教育** / 9 生涯学習 / 10 文化・スポーツ

意見 「施策2 ニーズに応じた支援の充実」に以下を加筆すべきである。

「不登校はじめ諸事情で学校に通うことができない児童・生徒に対して基本的な教育保障をするため、通常授業の録画記録とオンライン配信の体制を整備します。」

理由 学校教育には学校の通うことを通じ、教師と生徒、生徒どうしが対面する人間関係によって育んでいく要素がある。学校に通わない場合、その代替は簡単ではない。しかし、一方で、各科目・教科の学習に関しては、通常授業をオンライン配信し、それを児童・生徒が自宅で視聴することができれば、基本的な教育保障が可能となる。コロナを経て、一部の塾や予備校では取り入れているしくみであり、船橋市の学校教育でも実施すべきである。